

コロナ第10波とも言える流行もひと段落つき、ひと安心してはいますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

表紙を飾ったのは、とよみ生協病院 原国 政裕先生の撮影した『松本城と北アルプス』です。お見事な構図であります。松本城は天守を囲んで三重の水堀が巡っており、バックに北アルプスの山々を借景として、堀に姿を写す天守は、他の城ではみられない絶景のようです。お城めぐりもしてみたくになりますね。

また、3月号では、表紙写真年間グランプリの発表もあり、みなみしまクリニック 島袋 毅先生の撮影した「青森 奥入瀬溪流」(令和5年10月号掲載)が見事グランプリに選ばれました。写真で見ていると、マイナスイオンを感じます。

白井理事から第135回沖縄県医師会医学会総会についての報告がありました。コロナ禍ではweb開催となっていたポスターセッションも対面になり、再び活気に溢れてきているのを肌で感じました。研修医部門では、内容はもちろんですが、発表態度や質問に対する対応など、

自分の研修医時代とは比較にならないほどのレベルの高さに毎回驚かされています。ますます沖縄県医師会医学会総会が研修医、勤務医、開業医などのすべての沖縄県の医療のディスカッションの場となることを期待しています。

生涯教育では、琉球大学病院 産婦人科の知念 行子先生に、非侵襲性出生前遺伝学的検査についてご執筆いただきました。非侵襲性であるが故に検査を受ける妊婦が増加し、いわゆる「命の選別」が安易に行われることが懸念点と指摘されており、非常に難しい問題だと思いました。

インタビューコーナーでは、琉球大学大学院 医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科 教授 山本 和子先生が沖縄の医療に対する熱い思いを語っていただきました。「若手人材の確保、高度医療、リサーチマインドを持った医師の育成」という3つの目標を掲げ、これからの山本和子教授流の改革に期待したいと思います。

来月からは新年度がスタートします。何か新しいことを始めてみたいものですね。

広報委員 間仁田 守

